

全国曹洞宗青年会

SOUSEI

2024.2 VOL.204

特集①「創立50周年記念事業」始動

両大本山報恩拝登 大本山總持寺
災害復興支援活動 全国研修会

特集②「仏教とAIの未来」

AIとは何か？

小路竜嗣師インタビュー AI技術の宗教応用と可能性

石井清純師インタビュー 禅学者からの提言

特集まとめ

AI時代への展望



全国曹洞宗青年会
創立50周年記念事業スタート

大祖





堂





しまのの すすむ
島蘭 進氏
 東京大学名誉教授(宗教学者)
 上智大学クローフェア研究所元所長
 大正大学地域構想研究所客員教授



おおすが としゆき
大菅 俊幸氏
 公益社団法人
 シャンティ国際ボランティア会
 (SVA)アドバイザー
 曹洞宗総合研究センター講師

全曹青創立50周年記念事業の一環として、全国9管区で「災害復興支援活動全国研修会」を実施しています。基本的な研修内容に加え、その土地の特徴や季節感を踏まえながら、「災害復興支援のはじめの一步を踏み出すために」をテーマに、研修会を展開してまいります。

東海管区

東海管区での研修会は、令和5年12月5日（火）に愛知県豊田市の永澤寺様で開催され、約50人の僧侶や寺族が参加しました。講師には長年にわたり被災地で支援活動を継続されている大主雅宏氏（NPO法人 BOND&JUSTICE）と中島武志氏（NPO法人 災害救援レスキューアシスト）をお招きしました。

まず午前には大主氏による炊き出し実演があり、4品目のおかずが次々と出来上がっていく中で、多量の食材を調理する段取り、被災地でどんな料理が喜ばれるかなど、実践的なノウハウをご教授いただきました。午後には中島氏より「災害復興支援心得講義」としてご自身の経験に基づくお話を伺い、枠組みに捉われず被災者に寄り添う支援の形について学びを深めました。

寒空の下、山間の境内に炊き出しの湯気が立ち昇る様子に、人と人のご縁の温かさを実感いたしました。全体を通じて、参加者各自が「これから自分たちに何ができるのか」を具体的に考えることができ、今後の活力となる研修会でした。

文／広報委員 竹田龍永



九州管区

九州管区での研修会は、令和5年12月11日（月）に熊本県熊本市の大慈寺様にて開催されました。小雨が降りしきる中で開催でしたが、約40人の方に参加いただきました。講師は前回に引き続き、大主氏と中島氏をお招きしました。講師の二人は、平成28年の熊本地震や、令和2年の豪雨災害などでも熊本で精力的に活動され、参加者の中にはすでに面識のある方もおられました。

炊き出しの実演では、アルファ米の調理方法や、各地で配備されている炊き出しセットの使い方のレクチャーを踏まえつつ、炊き出しでの調理と通常の調理の違いや注意点を学びました。温かい料理が食べたいというのは、人間の本質的な欲求かもしれませんが、実例として、「被災者の方に温かい料理を食べてもらいたいという気持ちや、食中毒の事故につながることもある」という知識もいただきました。災害時こそ正しい知識と技術が必要であると感じた事例でした。調理終了後は、パツク詰める料理はしっかりと冷まし、温かいお汁と共に昼食としていただきました。昼食後は、座学として「災害復興支援心得講義」が行われ、質疑応答では活発な意見交換が行われました。

文／広報副委員長 信行一宏



特集 仏教とAIの未来

近年、AI（人工知能）は驚異的な進化を遂げ、私たちの生活を格段に便利にしました。例えば、ChatGPTのような文章生成に優れたAIは、医療や教育、クリエイティブな分野などで利用され、精度や効率の向上に大いに貢献しています。また、音声アシスタント（AppleのSiriやAmazonのAlexaなど）や自動車の自動運転技術にもAIが活用されています。

AIの急速な進化は、私たちの生活のあらゆる側面に変化をもたらしています。その中で、僧侶として人々や社会に寄り添うために、AIが今後どのように生活を変えていくのかに関心を持つことが重要です。さらに、A

Iが様々な分野で革新的な応用を見せる中で、宗教にもたらす変化や可能性、そしてAIとの適切な関わり方について考えていきたいと思えます。

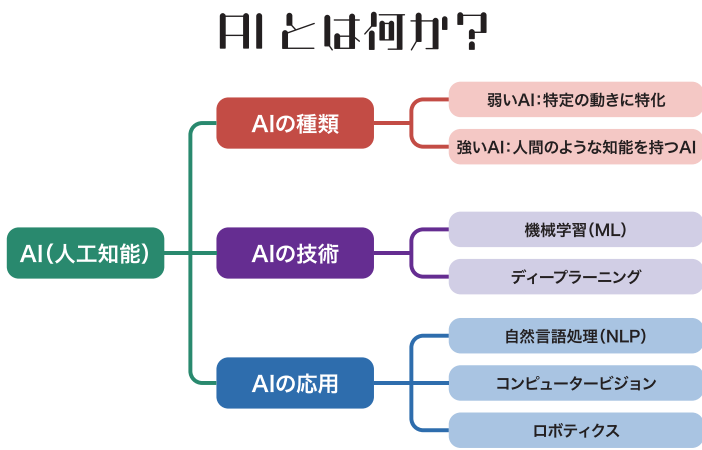
今回の特集では、宗教とAIの可能性と課題について、2人の専門家の見解をお聞きしながら探求していきます。宗教とAIの関わりを考察し、未来の展望を提供することで、皆様により深い理解を得ていただけることを願っています。この特集を通じて、AIが宗教に与える影響を考え、AIが寺院の運営や布教活動にもたらす可能性やその能力の拡張について提案していきます。



人工知能 (AI) とは何なのか？

人工知能 (AI) は、通常人間の知性が必要とされるタスクを行うためのコンピュータシステムの開発を指しています。これは、アルゴリズム※①やモデル※②の作成により、機械が人間のような推論、学習、問題解決、知覚、意思決定を模倣することが可能になるのです。

AIの根幹には、コンピュータに「①経験から学ぶ能力」や「②新しい情報に適応する能力」、「③通常人間の知能が必要とされるタスクを実行する能力」を模倣させることがあります。AIには様々な分野や技術が含まれており、それぞれが異なる目的を果たしています。



1. AIの種類

■ Narrow AI (弱い AI) : 特定タスクの実行や、特定の問題を解決するように設計されたシステムです。例として、Siri や Alexa のようなバーチャルアシスタント、オンラインショッピングの推薦システム、顔認識ソフトウェアなどがあります。

■ General AI (強い AI) : 科学技術小説で描かれることが多く、機械が理解、学習、推論、異なる領域で知識を適用する能力を持つことを示します。ただし、このレベルの AI を達成することは、まだまだ複雑で、課題のある分野です。

3. AIの応用

■ 自然言語処理 (NLP) : コンピューターが人間の言語を理解、解釈、生成する能力です。チャットボット、言語翻訳ツール、感情分析、テキスト要約などに応用されています。

■ コンピュータービジョン : 画像や動画から視覚情報を解釈できるようにすることを目指しています。顔認識、物体検出、自動運転、医用画像解析などに利用されています。

2. AIの技術

■ 機械学習 : データからパターンを見つけ出し、コンピュータに自動的に学習させる技術です。これには、教師あり学習 (ラベル※③の付いたデータを使う)、教師なし学習 (ラベルのないデータからパターンを見つける)、強化学習 (試行錯誤を通じて学習する) などがあります。

■ ディープラーニング : ニューラルネットワーク※④と呼ばれる仕組みを使って、多くのデータを処理し、画像認識や音声認識などのタスクを行う技術です。これは次に紹介するコンピュータビジョン、自然言語処理、音声認識などの分野で革新を起こしています。

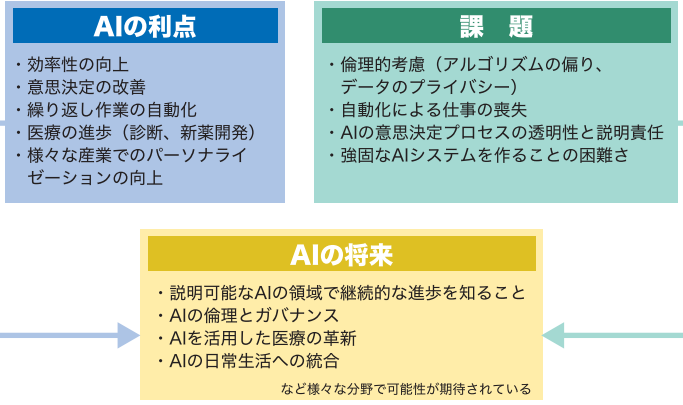
4. AIの利点と課題

■ 利点 : AI は効率性の向上、意思決定の改善、繰り返しタスクの自動化、医療分野での進歩 (診断、薬剤開発)、様々な産業分野での個別の事例に合わせたカスタムなど多くの利点を提供しています。

■ 課題 : 倫理的考慮事項 (アルゴリズムの偏り、データのプライバシー)、自動化による仕事の喪失、強固な AI システムの作成の困難さ※⑤、AI の意思決定プロセスにおける透明性と責任の必要性などがあります。

文 / 広報委員 多飯皓成

AIの利点とこれからの課題



※① コンピューターが問題を解決やタスクを実行するための段階的なシブシブや指示のようなものです。基本的に、コンピュータが何かを成し遂げるための計画です。

※② より複雑なものの簡略化されたバージョンや表現のようなものです。コンピュータリングやデータ解析では、利用可能な情報に基づいての予測や、事象の動きを理解するために使われます。

※③ より複雑なものの簡略化されたバージョンや表現のようなものです。コンピュータリングやデータ解析では、利用可能な情報に基づいての予測や、事象の動きを理解するために使われます。

※④ 機械学習における「ラベル」とは、データの中のものに付けられたタグや名前のようなものです。例えばコンピュータに動物の写真を認識させたいとします。各動物の写真には、「猫」「犬」「鳥」といったラベルが付けられています。これらのラベルは、コンピュータにどの写真がどの動物かを学ばせるのに役立ちます。つまりラベルは「コンピュータに対して、これは猫の写真で、あれは犬の写真だよ」と教えるようなものです。

※⑤ 生物の学習メカニズムを模した機械学習の手法です。「ニューロン」と呼ばれる計算をする部品が複数あり、それぞれのニューロンが問題の特定部分を見ます。それらが共有し合いながら、協力して全体の理解をしていく手法です。

※⑥ 多様な条件下で安定した性能を発揮し、変化に対応し、頻繁に問題に遭遇することなく機能を維持する AI を開発することは、まさに AI 開発における重要な課題であり、極めて難しい課題であるということです。



こうじ りゅうじ
小路 竜嗣 師

長野県塩尻市の浄土宗善立寺副住職。信州大学大学院工学系研究科を修了後、(株)リコーに就職して商業用印刷機の設計に携わる。結婚を機に浄土宗の僧侶となり、エンジニアとしての経験を基に寺院のIT化・リテラシー向上等の活動を精力的に行っている。2021年からは「寺院ITアドバイザー」としても開業する。

「AI技術の宗教応用と可能性」

近年「AI」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。新しい技術の到来に、漠然とした期待や不安を抱いている青年僧侶も多いのではないのでしょうか。今回は小路竜嗣師に、AIとは具体的にどういったもので、何ができて何ができないのか、私たちはどのようにAIと付き合っていくべきなのか、お話を伺いました。

―昨今取りざたされているAI技術ですが、宗教との接点はどこいったところになってくるのでしょうか。

まず前段階として、AIの定義について

とお話しします。現在あるAI・人工知能は定義としてなぜ知能と呼ばれるかという話です。既存のプログラムは、開発者が最適なものを設定して作ります。例えば昔、通信会社のソフトバンクのペッパー君がけん玉をする動画がありました。既存のプログラミンクの考え方ですると、開発者は玉が乗るように設計をしなければなりません。AIは自分で学習を行います。最初は多くの失敗をしながら点数をつけていきます。うまくいったら1点貰える、そうするとい点数を取ろうというプログラムが作動します。先程1点だったから次は2点取れるように、3点取れるように徐々に学習をしていき、最後はうまくいくようになります。

このプロセスが、子どもが物事を覚えていくことに似ているため人工知能と呼ばれています。プログラムを書く人がこすればうまくいくというものを設計せずに、最後の結果として、こうなつて欲しいという姿さえ設定しておく、人工知能が学習していきその結果に結びつくというのが、この設計の思想です。ペッパー君のけん玉は初期段階では失敗ばかりでしたが、一回成功したときにこの振り方だったら成功する、という人間でいうところのコツを学ぶと、それ以降は成功が続いていきます。

現在あるAIというのは非常に限られた分野だけになります。商業化されているものでは、例えばパン屋でAI技術を使ったパンの計算機というものがあります。上にカメラがついていて、トレイを入れると一瞬で値段がわかるというものが

です。ひとつ笑い話があつて、トレイがあるところに子どもの手が乗っていると、AIがその子どもの手をクリームパンか何かだと思つて計算してしまつたということがあつたそうです。つまり現在実用化されているAIというのは、人間のように考えるものではなくて、言語の認識や画像認識など非常に狭い局所的な機能しかありません。

その上で宗教との接点ということになりますと、やはりAIには潜在意識、仏教的にいわれる阿頼耶識やそういったものはありません。ただAIの背後には大量の書庫があつて、そこからただ推定されるものを、出力しているだけなのです。そういった意味でAIが仏教を語つたり、法話によって誰かの役に立つということは考えられないのではないかと思つます。

―AIが法要や布教の主体となつて人間に成り代わるようなことは考えづらいということですね。

ただ、例えば法話をするときに、出典元を探す際や言い回しをもう少しうまく伝えたい、というときに役に立つのではないのでしょうか。法話を聞いてくれる先輩や同輩の人がいないときに、原稿を作るアシスタントになってくれる可能性があります。

— 補助的な役割で寺院運営に使える可能性は大いにあるということだと思っておりますが、宗教とAIの融合により今後、新たな機会や挑戦が他にも生まれることはあると思われませんか。



RPA デジタルワールドでロボコン審査員 (2019)

そうですね、そのために必要になることがあります。AIと仏教が融合するときには、AIに日本仏教の何たるかを教え込まないといけないわけですが、現状としてそういったデータはありません。そのため、この日本の仏教界全体がAIに読み込ませるデータセット※①を作らなければなりません。その上で、翻訳や解釈の支援ということが、融合する場所として、やりやすいところかなと思います。

— 大学などの研究機関では仏典の電子データなども利用されているようですが、そういったものをAIに学習させることはできるのでしょうか。

テキストベースになっていると、段階的には料理の素材は揃っているということになります。それを生成AIに上手に覚えさせるには、素材そのものを読み込ませて中々うまくいきません。AIが読みやすい形に、これはこの意味ですよという紐付け等を行う必要があります。それができたら、限定的ではありますが、既に研究成果のある内容に関してAIに答えてもらうことができると思います。

— 青年僧侶が個人で実践できるような具体的なAIの活用例や、ご提案はありますか。

まず使いやすいくところでは、法話原稿

のチェックや記事の校正には非常に有用であると思います。いただいた原稿が「である」調と「ですます」調が混在しているときや、時系列が少しバラバラで読みにくいときなどは生成AIを使うと簡単に編集できます。

他にはAIそのものがサービスに組み込まれている例でいうと会計ソフトです。クラウド型の会計ソフトだと、レシートを読み込むのにAIの技術が使われていて、レシートを写真から読み込むと、金額がわかるだけでなく科目を仕分けしてくれます。そういったものが実際にもう存在しています。

また今までは検索エンジンで語句を入力すると、関連するデータの統計に基づいて、この辺りが近い情報でしょうと教えてくれました。しかし生成AIは知りたいことをそのまま入れれば答えてくれるという次の段階に進んでいます。例えば表計算ソフトで何がしたいかを言うだけで、必要な関数を教えてくれる。AIの登場でコンピュータが持っている知識にアクセスしやすくなったと思います。

— これからAI時代を迎えるにあたって、僧侶にはどのような資質が求められるとお考えでしょうか。

AIには仏教的に大事にしている人間の心の動きというのが全くないわけですが、これから様々な経典を覚えていけば、色々な教えが混在した表面上はいくらで



も人のためになるようなことを言えます。私たちはそれに対して、聞き手の気持ちいい回答をしてくれるAIお坊さんで良い、と思われないうようにしないといけません。本当に信と行を持って活動をするといいことが重要です。実践や研鑽といったものが、宗教的な部分で僧侶に求められる能力だと思えます。

取材／広報副委員長 信行一宏
 広報委員 竹田龍永
 広報委員 多飯皓成

※①ある目的や対象について収集され、一定の形式に整えられたデータの集合

人たちの成果を確認していくということになるのではないかと思います。

「AIも、これまでの技術革新の延長線上にあるのでしょうか。」

AIは少し変わってくるところがあるとは思いますが。プログラムというのは作った人間を本来超えられないはずなのですが、AIはそれをどう超えていくか、ということを努力されていると思います。ただやはり元となるプログラムを作るのは人間なので、そういう意味ではこれまでの技術の流れの中に置かれていくと思います。

生成AIは一回私も使ってみました。「禅とは何か」という質問をすると最初から核心的な良い答えが返ってきます。レポートとしては100点をつけられませんが、あくまでレポート。知識を網羅しているだけでオリジナリティはありませんでした。つまりそこに価値判断がないということですね。私たちは多くの情報を集めて判断し、そこから新たな展開を考えていくわけですが、それをこれからどこまでAIがこなしていくのか現状では未知数なところはあると思います。

「AIについて宗教や倫理、道徳に関する面ではどういった影響が考えられるでしょうか。」

私はとても楽観的な考え方を持っていて、AIの頭が良くなればなるほど倫理

観もきちんと確立するのではないかなと思っています。こういうことをしてはいけないとか、これはどこまで許されるのかということが、しっかり明確化され再確認されるという、そういう流れを私はとても期待しております。

「価値観が均一化してしまうような心配はないでしょうか。」

多様性の尊重というのは大切です。禅的発想としては、AIの開発も、むしろ結果を均一化させないように、考える方向に向かうのではないかなと思っています。禅には、多様性を柔軟に受け入れる一面も存在しています。だからアメリカにはアメリカの曹洞禅ができてきている。あるものを他の地域や異文化の中で受け入れると、その展開は多様化して行かざるを得ません。といっても、すべて変容してしまつては曹洞禅ではなくなつてしまいますから、教えの根幹としてここまでは守っていきましようというところを確認することが、より大切になつてくるのではないかなと思います。

自己啓発書などを見ると、禅語の使い方が結構間違つていたりして、禅の教えが広まるほどそういう状況が出てくると思います。その是正にAIが役に立つのではないのでしょうか。大量の情報を集めて、しっかりとふるいにかけて峻別するというのはAIの最も得意とする作業だと思えます。

「宗門の立場からはAI等の新しい技術の利用をどう捉えるべきでしょうか。」

やはり便利にはなるわけです。オンラインで色々なことをするのが普及しましたよね。非常に多くの人に多くの機会を与えることができる。私もオンラインで『正法眼蔵』の読書会を開催しておりますが、9ヶ国の研究者が参加しております。オンライン坐禅会も増えました。私も参加しています。誰とも会えないから一人で自分の世界に浸る、ということの方が実は怖いところがあつて、むしろオンラインでもいいから一緒に坐っていると

いう感覚を常に持つていることが結構大事なのではないかなと思ひながら参加しております。

ただ、リアルタイムで繋がった状態で坐禅をしている分には良いかもしれませんが、仮想空間でアバターを作つてということになると、それはどうなのかなと思います。道元禪師が「今この瞬間」を仏の世界として捉え、それを自己の身心をもつて実践すべきことを強調されているのを考えると、そこに何らかの歯止めとなる基準を持つていなければいけないように思ひます。

AIやオンラインの新しい技術が生まれたからこそ、「今この瞬間」、「今の自己」というものと、コンピュータの中の世界との関係性を再定義しなければいけないでしょうね。どこまではよくて、どこまでは駄目というのは難しく、結局答えは出ないのですが、常に考えながら進んでいくということになるのではないのでしょうか。そうならば、それはそれです。道元禪師の禅に繋がるのではないかなと思います。

取材／広報副委員長 信行一宏
 広報委員 竹田龍永
 広報委員 多飯皓成





画像生成 AI「Midjourney」を用いて”仏教とAIの未来”のイメージとして本項の挿絵を生成しました

産業革命から始まった技術の進化は、社会に常に変化をもたらしてきました。今、青年僧侶はAI時代に直面し、教化について模索しています。今回のインタビューでは、浄土

宗善立寺の小路竜嗣師と駒澤大学の石井清純師にお話を伺いました。二人は技術の進歩を肯定しつつも、その活用方法や限界に言及しています。

ここでは、お二人のインタビューから得られた洞察に基づき、僧侶に必要な能力やAI技術と宗教の共存に向けた期待やメッセージに焦点を当てていきます。青年僧侶に求められる能力について、お二人は異なる視点から語っています。

小路師は、AI時代においても「信仰心」や「修行（実践）」など、伝統的な宗教を重視することが重要だと指摘しています。一方、石井師は、多様な情報を整理し判断する能力や、新しい技術を柔軟に取り入れることの重要性を述べています。お二人とも、宗教的な価値観を尊重しつつ、AI時代の新たな課題にも適応できる能力が必要だと共通して示しています。

また、AI技術が倫理や道徳に与える影響についても言及しており、技術の進化を適切かつ倫理的に利用することの重要性を強調しています。さらに、AIが知識を提供する一方で、人間らしさや共感、思いやりなど、宗教が重視する価値観が失われないよう呼びかけています。

AIやテクノロジーの急速な進展により、社会は大きく変容しつつあります。宗教や伝統もまた、これか

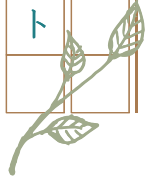
らの時代に新たな価値を見いだし、進化していくことが求められています。今回のインタビューから、曹洞宗の未来を担う僧侶の方々の、伝統と技術の融合、柔軟性と創造性、そして倫理観の重要性についての示唆としてお受け取りいただけたら幸いです。

曹洞宗におけるAI時代の模索は、単に技術を受け入れるだけでなく、宗教の本質を保ちつつ、新たなテクノロジーを取り入れることが肝要ではないでしょうか。柔軟性と創造性を持ちながら、先人たちの教えを大切にし、新たなアプローチや価値を創出していくことが重要です。また、倫理観や人間性を忘れず、技術の活用の際には、人々との共感や思いやりを大切にすることが求められます。

未来への挑戦は容易なことではありませんが、これからの時代を担う青年僧侶の努力と知恵が、曹洞宗の価値をより多くの人々に届ける鍵となるはずです。常に心を磨き、伝統と未来を結びつけ、人々に寄り添う姿勢を忘れず、新たな時代を切り拓いていきましょう。

文／広報委員 多飯皓成

加 盟 曹 青 会
活 動 レ ポ ー ト



第48回曹洞宗青年会東北大会
地方集会「青森大会」

令和5年10月20日、青森市において開催いたしました。

開催に先立ち五所川原第一高等学校津軽三味線部に、力強い迫力ある三味線の組曲を演奏いただき、曹洞宗青森県宗務所・小笠原寛昌副所長に東日本大震災災害者追悼法要の導師を、東北地区曹洞宗青年会連絡協議会・菊池裕紀会長に記念式典・仏祖諷経の導師を務めていただきました。そして曹洞宗青森県宗務所・工藤秀規所長、全国曹洞宗青年会・田ノ口



東日本大震災物故者追悼法要

太悟会長よりそれぞれお祝辞をいただきました。

講演では、大本山總持寺副貫首・盛田正孝老師に「若き仏たちへ」をテーマに、老師自身の若かりし日の貴重な体験を通して、その中で「これは」と思うことがあれば幸いですとお話し下さいました。今この時代にどのようなべきかを考える機会となり、大変ありがたい講演となりました。

近年の制約が緩和された今大会が、多くの参加者の笑顔が交わり、無事円成いたしましたことに感謝し、ご報告いたします。

文／青森県曹洞宗青年会会長
兼 大会実行委員長 平 周運



盛田正孝老師 講演

第47回東海管区曹洞宗青年会大会
並びに三重県曹洞宗青年会
60周年記念大会

令和5年11月26日、三重県津市にある総合文化センター中ホールで開催し、約900人の方々にご来場いただきました。大会のテーマに「今、自分にできること」を掲げ、コロナ禍において自己を見つめ直す機会を経て大会を迎えました。

第一部では三重県曹洞宗青年会の有志で結成された「鼓司」が、鼓司の指導もしていただいている太鼓奏者の服部博之さんと和太鼓の演奏を行いました。また今回は周年大会ということもあり、特別に青年僧侶も舞台上がりこの日だけの特別な演出で1時間にも及ぶ演奏を大歓声の中終えました。



鼓司演奏

第二部では三重県の写真家・浅田政志さんに講演を行っていただきました。家族で過ごすこと、写真をプリントして形に残すことの大切さを東日本大震災の写真洗浄のボランティアの経験を交えてお話しいただきました。また終盤には遺影について青年僧とも対談していただきました。

近年なかなか一堂に会することが難しかった情勢ではありましたが、会場で皆様の喜んだ顔や感動した顔、温かい拍手などたくさんの方々の反応を直に感じることで、やはり同じ場所と同じ時間を共有するのはとても素晴らしい体験だと感じました。この仏縁を大切に、これからも皆様とあゆみを進めていきたいと思えます。

文／三重県曹洞宗青年会
大会実行委員長 佐藤大智



浅田政志氏 講演

**第46回中国曹洞宗青年会「石見大会」
終活〜寺院による終活支援の意義〜**

令和5年11月7日、「終活」を大会テーマに開催いたしました。

講師に長野県臨済宗長昌寺住職・田口誠道師をお招きし、ご講演いただきました。行政書士を兼業されており、専門的知識の裏付けを伴った、僧侶寺院による終活支援のお話は、僧侶としての責任と可能性を考えさせられました。

また、今大会に合わせて石見曹青会員が作成した『終活ノート』と『終活ノート活用マニュアル』を、ご披露させていただきました。

おかげさまで、学び深い濃密な大会と



田口誠道師 講演

なりましたこと、関係者各位に感謝申し上げます。今大会のゴールは寺院による終活支援の促進であるため、引き続き終活支援の啓発を進めてまいります。今回作成しました「お坊さんがつくった『終活ノート』」の頒布もしておりますので、ぜひご活用いただければ幸いです。

文／石見曹洞宗青年会

大会実行委員長 井田昭彦

お坊さんがつくった
『終活ノート』
頒布ページ



お坊さんがつくった「終活ノート」

**曹洞宗福島県青年会
「ふくしま禅フェス〜楽しい寺子屋〜」**

私たち曹洞宗福島県青年会は本年創立60周年を迎えました。その周年記念事業として、令和5年10月15日に「ふくしま禅フェス〜楽しい寺子屋〜」と題し、会員手作りの禅フェスを行いました。

会津若松市の会津藩校日新館をさながら「現代の寺子屋」として再現すべく、坐禅、法話、写経、写仏、禅の食事作法など王道の仏教体験ブースを中心に、数珠プレスレットやキャンドル、トートバック作りなど子どもでも楽しめるワークショップも加え、様々な体験を通して仏教を感じられるフェスを目指しました。



最後に撮った集合写真（メインステージ前で）

た。全曹青、宮城県曹洞宗青年会にもブース出展の協力をいただきました。メインステージでは、大般若祈禱、書道パフォーマンス、ご詠歌、お坊さんDJ、声明、地元団体の発表等を行い、大いに会場の雰囲気盛り上げました。

当日は悪天候ながら約600人の方が来場され、大人も子どもも「楽しかった、来て良かった」と笑顔が溢れて、大盛況のイベントとなりました。会員それぞれも、一般の方の仏教に対するニーズを肌で感じ、自身の布教活動への学びを深めるとしても良い機会となりました。

文／曹洞宗福島県青年会会長 佐藤泰典



ワークショップ

大阪曹洞宗青年会

「禅フェスおおさか」

令和5年11月4日、池田市の大廣寺と陽春寺において、大阪曹洞宗青年会創立60周年記念行事「禅フェスおおさか」を開催いたしました。

大廣寺での子ども祈祷と萬燈供養を軸に、境内では地元池田市の飲食店を中心とした出店ブースや坐禅や植栽体験、陽春寺では寺ヨガ体験や匂い袋教室、写経・写仏体験などを行いました。盛り沢山の内容を通して、ご来場いただいた方々に仏教の教えを伝えることができたのではないかと思います。

2年間の準備期間を経て開催に至った今回の禅フェスですが、大曹青では前例



子ども祈祷の様子



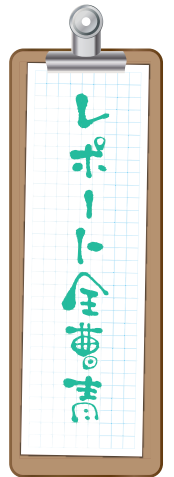
萬燈供養中の大廣寺境内



のない行事ということもあり、形にするまで多くの苦労と失敗がありました。しかしその分、来場者で賑わう境内や「また開催してほしい」といった嬉しい反響に大きな希望と、これからの会としての指針をいただけたように感じました。ご協力いただいたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

最後に、禅フェスは幅広い世代が仏教に触れることのできる素晴らしい機会だと実感しました。今後は協力していただける他業種の方々と、我々僧侶ができることを上手く融合させて「禅フェスおおさか」をより発展させていければと思います。

文／大阪曹洞宗青年会 本田秀之



「味来食堂」僧食を学ぼう」

開催報告

令和5年12月8日(金)、愛知学院大学日進キャンパスで「味来食堂」僧食を学ぼう」が開催されました。今回新たな試みとして、健康科学部健康栄養学科の1年生を対象に授業の一環としての精進料理教室でした

講師である山崎元道師の指導のもと、午前午後合わせて100人規模で実際に調理を行いました。生徒の皆さんは

初の精進料理作りでしたが手際よく進めていきました。また曹洞宗の食事作法にそって食事をいただき、五観の偈の教えを通して食材の命をいただく際の心構えや姿勢を養いました。その後椅子坐禅、学生の皆さんとの記念撮影を行い、宗門校の方に改めて禅の教えに触れていただくとともに交流を深めることができました。

また当日は学内で成道会の法要があり、引田弘道学長を導師として午前の部で調理されたお膳をお供えし、厳かな雰囲気で行われました。お釈迦様や祖師方のみ教えを次世代を担う若者に継承していく大事さを肌で感じる有意義な1日となりました。

文／広報委員 南澤亨全



監事 金森成裕

山形曹洞宗青年会

第25期監事を仰せつかり、前期の評議員を経て全曹青に戻ってまいりました。長年所属した山形曹洞宗青年会からの卒会を来年に控えております。青年僧侶としての最後に、これまでの経験を活かし監事としての客観的な視点を持ちながら会務運営の支えとなる所存です。50周年を迎える全曹青に5期10年育てていただきました。「恩送り」で次代に繋げてまいります。



監事 武田信光

曹洞宗山梨県青年会

全曹青創立50周年という節目に全曹青の一員として携われるご縁に感謝しつつ、第25期スローガン『結集：想いを結び合わせ、未来へ』のもと、監事として微力ながら尽力してまいりたいと存じます。よろしくお願い申し上げます。



庶務 高杉春輝

青森県曹洞宗青年会

今期初めて出向させていただきました。不慣れな点も多く、ご迷惑おかけすることもあるかと思っております。今期は全曹青の創立50周年という大きな節目を迎え、何ものにも代え難い貴重な経験をさせていただいております。もとより浅学非才・未熟な身ではございますが、このご縁に感謝しながら2年間庶務という任を精一杯務めさせていただきます。



庶務 小林宗明

宮城県曹洞宗青年会

この度、第25期庶務の任を仰せつかりました。不慣れなことで至らぬ点もございますが、諸先輩方のご指導を仰ぎ、皆様方がより円滑に活動に働き合えるよう尽力いたします。今期は全曹青創立50周年を迎える期でもありますので、この第25期が無事円成できるよう修行してまいります。2年間よろしくお願いいたします。



庶務 乙川大樹

新潟県曹洞宗青年会

全国曹洞宗青年会創立50周年の記念すべき期に法縁をいただいたことに感謝いたします。「銀盃に雪を盛り、明月に鷲を蔽す。類して齊しからず、混ずるときんば処を知る。」祖師のお言葉を胸に、50周年記念事業無事円成、そして、青年宗侶の役割を果たすべく会務に励んでまいります。2年間よろしくお願いいたします。



庶務 上野祐幸

曹洞宗長野県第一青年会

前期から引き続き庶務を務めさせていただきます。2期目の庶務だからこそできる仕事を考え、執行部の方々に前期以上にサポートできるよう務めてまいります。素晴らしい50周年になるよう尽力いたしますので宜しくお願いいたします。



庶務 河野一哉

東三河曹洞宗青年会

今期、初めて出向させていただきました。全曹青創立50周年を迎え大変責任のある期であると思っておりますが、会長含め全曹青の皆が力を結集して頑張っている姿を拝見しました。ご迷惑をおかけすることもあると思っておりますが、一生懸命務めてまいります。



庶務 山本宣輝

四国地区曹洞宗青年会

全曹青へは2期目の出向であり、前期より引き続き庶務を務めさせていただいております。今期は50周年記念事業という大きな事業に携わらせていただき光栄です。他にも多くの事業が展開されるため大変なこととは思いますが、皆様と一緒に50周年記念事業が無事円成できるように励んでまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

全国曹洞宗青年会の活動にご理解とご協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。
お預かりした賛助費は活動の大きな支えとして活用させていただくとともに、
またボランティア基金として災害復興支援活動に充てさせていただきます。

全国曹洞宗青年会創立50周年 協賛金芳名録

～2023年12月31日取扱い分

◆愛知県
地蔵寺 様

◆島根県
長見寺 様

◆島根県
洞光寺 様

◆秋田県
倫勝寺 様

◆広島県
善昌寺 様

◆島根県
十楽寺 様

◆島根県
總光寺 様

創立50周年記念事業 祝賀芳名録

2023年11月29日 大本山總持寺報恩拝登、災害復興支援活動研修会(12月5日東海管区、12月11日九州管区)

WFBY世界仏教徒青年連盟会長 村山博雅 様

全日本仏教青年会 様

融通念佛宗青年会 様

神奈川県仏教青年会 様

全国浄土宗青年会 様

全国日蓮宗青年会 様

埼玉県佛教青年会 様

大阪府佛教青年会 様

金峯山青年僧の会 様

(一社) 神戸青年仏教徒会 様

全日本仏教青年会 西郊良貴 様

全日本仏教青年会 和田弘雅 様

全日本仏教青年会 来馬司龍 様

全日本仏教青年会 谷晃仁 様

全日本仏教青年会 東海林良昌 様

全日本仏教青年会 成田淳教 様

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 様

山梨県 自元寺 様

山口県 源久寺 様

福岡県 長覚寺 様

熊本県 神照寺 様

熊本県 妙音寺 様

熊本県 長徳寺 様

岩手県 興禪院 様

熊本県第一宗務所所長 中山義紹 様

第5期副会長 大谷俊定 様

第6期会長 吉岡棟憲 様

第9期会長 木南広峰 様

第11期会長 櫻井朝教 様

第13期会長 荒木正昭 様

第17期会長 芳村元悟 様

第19期会長 松岡広也 様

第20期会長 桜井尚孝 様

第21期会長 安達瑞樹 様

第22期会長 倉島隆行 様

第22期副会長 河口智賢 様

第23期会長 原知昭 様

第23期事務局長 金森成裕 様

第24期会長 山田俊哉 様

第24期副会長 岡島典文 様

彩青会(埼玉県第二宗務所青年会) 様

曹洞宗山梨県青年会 様

曹洞宗静岡県第一宗務所青年会 様

伊豆曹洞宗青年会 様

静岡第三同志会 様

曹洞宗愛知県第三宗務所青年会 様

東三河曹洞宗青年会 様

三重県曹洞宗青年会 様

山口県曹洞宗青年会 様

九州曹洞宗青年会 様

長崎県曹洞宗青年会 様

熊本県曹洞宗青年会 様

大分県曹洞宗青年会 様

岩手県曹洞宗青年会 様

青森県曹洞宗青年会 様

東海管区青年会会長 井上洋彰 様

熊本県曹洞宗青年会会長 永石龍光 様

頂戴いたしました浄財は、全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業の
円成のために活用させていただきます。衷心より御礼申し上げます。

表紙の話

今号表紙では、特集テーマである AI 技術を意識し、「変化と自己」を表現いたしました。残像のように目まぐるしく進化する技術と、その中に在って自己を保つことの大切さを表現しています。

撮影地/ 福岡県 久留米駅 撮影/50周年記念事業実行副委員長 菅悠生

賛助費・ボランティア基金浄納芳名簿

2023年10月1日～2023年12月31日取扱い分

◆東京都

90 梅岩寺 様
239 宗保院 様
240 東雲寺 様
256 妙全院 様
299 龍津寺 様
327 新福寺 様

◆神奈川県2

131 乗福寺 様

◆埼玉県1

19 宝積寺 様

◆埼玉県2

331 曹源寺 様

◆群馬県

141 如意寺 様
311 泉通寺 様

◆栃木県

69 慶翁寺 様
80 長安寺 様
175 本光寺 様

◆茨城県

13 龍泉院 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
296 東善寺 様

◆山梨県

280 円通院 様
543 龍澤寺 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
388 林叟院 様
464 正泉寺 様
551 成道寺 様

◆静岡県2

228 耕月寺 様

◆静岡県3

868 龍巢院 様
927 正眼院 様

◆愛知県1

135 光明寺 様
156 地藏寺 様

◆愛知県1

252 慈眼寺 様
313 長松寺 様
375 春江院 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
677 祐源寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様
893 法蔵寺 様

◆岐阜県

108 玄霜寺 様
153 宗久寺 様
189 久昌寺 様

◆三重県1

39 庭岩寺 様
132 地藏寺 様
144 福源寺 様
166 陽光寺 様
276 地藏院 様
316 鈿光寺 様
364 観音寺 様

◆滋賀県

143 永壽院 様

◆京都府

6 天寧寺 様
91 福泉寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様

◆和歌山県

52 宗應寺 様

◆兵庫県1

287 向榮寺 様

◆兵庫県2

217 長福寺 様
221 永源寺 様
228 豊楽寺 様

◆岡山県

4 威徳寺 様
125 大椿寺 様

◆広島県

7 伝福寺 様
46 双照院 様
67 西福寺 様
102 潮音寺 様
117 龍雲寺 様
133 少林寺 様
135 鳳林寺 様

◆山口県

24 吉祥寺 様
72 真福寺 様

◆鳥取県

124 願成寺 様
139 養光院 様

◆島根県1

332 興源寺 様

◆島根県2

36 舜叟寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
155 洞光寺 様
175 萬福寺 様
187 養善寺 様
195 總光寺 様
200 法恩寺 様

◆愛媛県

146 興雲寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
25 南林寺 様
28 桂木寺 様

◆大分県

8 豊音寺 様
134 長安寺 様

◆長崎県1

78 宝泉寺 様

◆佐賀県

108 光明寺 様
254 萬福寺 様

◆熊本県1

28 大慈寺 様

◆熊本県2

78 地藏院 様
87 功德庵 様
88 明德寺 様
122 國照寺 様

◆長野県1

57 長秀院 様
71 苔翁寺 様
121 浄光庵 様
147 徳應院 様
328 泉洞寺 様

◆長野県2

389 宗福寺 様

◆福井県

47 瑞祥寺 様
108 玉祥寺 様

◆石川県

35 東光院 様

◆新潟県1

393 曹源寺 様
437 善祥寺 様
496 長樂寺 様
502 東光寺 様

◆新潟県4

285 大傳寺 様
814 地藏院 様

◆福島県

49 大泉寺 様
91 法伝寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
121 長泉寺 様
226 常隆寺 様
461 正法寺 様

◆宮城県

13 福聚院 様
94 秀籠齋 様
203 洞雲寺 様
228 瑞川寺 様
263 西林寺 様
310 洞福寺 様
314 満福寺 様

◆岩手県

7 永祥院 様
8 源勝寺 様
11 天昌寺 様

◆岩手県

21 恩流寺 様
28 聖福寺 様
52 福蔵寺 様
86 凌雲寺 様
96 常泉寺 様
111 西泉寺 様
158 願成寺 様

◆青森県

20 盛雲院 様
39 正法院 様
44 高澤寺 様
66 大慈寺 様
79 法光寺 様
100 澄月寺 様
101 聖福寺 様
103 光昌寺 様
113 正洞院 様

◆山形県1

152 慈眼寺 様
168 高松院 様

◆山形県2

346 長福寺 様
393 館山寺 様

◆山形県3

468 宗傳寺 様
622 光星寺 様
734 東光寺 様

◆秋田県

17 補陀寺 様
18 乗福寺 様
243 寶蔵寺 様
245 常泉寺 様
246 福城寺 様
302 天昌寺 様
321 鏡得寺 様

◆北海道1

12 善寶寺 様
13 曹溪寺 様
96 観音寺 様
486 薬王寺 様

◆北海道2

165 玉運寺 様

◆北海道3

146 晃徳寺 様

インターネット受付分

◆秋田県

265 倫勝寺 様
354 観音寺 様

◆新潟県1

394 常安寺 様

◆岡山県

2 海徳寺 様

◆島根県2

199 妙樂寺 様

◆宮崎県

59 明星寺 様



令和6年能登半島地震は石川県を中心に、各地に甚大な被害を及ぼしました。

お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害に遭われました方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。一日も早く日常生活の復旧が実現されますことを、心よりご祈念申し上げます。

令和5年12月16日、当会第3期会長をお務めになられた愛知県新城市・勝楽寺住職佐藤泰惇老師がご遷化されました。謹んで哀悼の意を表します。



全国曹洞宗青年会創立50周年記念事業

全国曹洞宗青年会「創立50周年記念式典」のご案内

全国曹洞宗青年会は第25期をもって創立50周年を迎えることになりました。

この間幾多の困難を克服し幸いに今日の基礎を築き得ましたことは、先輩諸老師、会員諸師皆様の絶大なるご法愛によるものであり、さらには関係の皆様のご理解とご協力によるものと衷心より感謝申し上げます。

つきましては日頃のご高恩に対し御礼を兼ね下記により記念式典を催したく存じます。

記

《日 時》 令和6年5月23日(木)

令和6年5月24日(金)

14:00～ 記念式典 於:曹洞宗檀信徒会館

10:00～ 記念講演 於:曹洞宗檀信徒会館

※詳細に関しましては、改めて各青年会の皆様をはじめ関係の皆様にご案内させていただきます。



YouTube

全国曹洞宗青年会

東日本大震災慰霊復興祈願法要のお知らせ



令和6年3月10日に福島県伊達市・成林寺境内納経塔前で「東日本大震災慰霊復興祈願法要」を厳修いたします。新型コロナウイルスの影響で数年は現地参加者も制限し、オンライン併用で続けてまいりました。しかし感染拡大も落ち着きつつありますので、今回より現地参加を募集いたします。また、本年も現地と全国を繋ぐオンライン法要として「全曹青公式YouTubeチャンネル」でライブ配信いたします。

昨年13回忌という大きな節目を迎え、多くの方々にご参集いただきました。これまで諸先輩方や関係者の皆様が繋いでくださった想いを受け継ぎ、

全国から参集する仲間とともに全国で多発する自然災害と復興への祈りを捧げます。併せて全国から願いが込められた写経用紙の納経供養も併修いたします。震災の記憶を風化させないためにも、多くの方々のご参集をお待ちしております。現地での法要とライブ配信により、全国の皆様の祈りを被災地に届けます。



全曹青公式
YouTube
チャンネル



慰霊復興祈願法要 3月10日 14:30～